

研究概要

1 研究の目的

高等学校教育課程課題研究の地理歴史、公民班では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいて授業改善を目指し、授業においてどのような問いを設定すれば、生徒の思考が活性化するかを探るために研究と授業の実践を行ってきた。その成果として、授業づくりの参考となる問いを多く蓄積することができた一方で、問いを活用して「本時の指導（一時間の授業）」をいかに充実したものにするかということに重きをおいてきたきらいがある。

そこで、単元の指導計画の中での「本時の指導」をどのように位置付けるのかという自明のことを改めて念頭に置いて、今年度の研究に取り組むことにした。その際に、中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日）において、「学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない」、「教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない」といった点が、学習評価の課題として指摘されていることを踏まえ、「指導の改善に生かす評価」を活用して、単元の指導と授業の実践に取り組んだ。

2 研究の方法

今年度は「指導と評価の一体化を意識した単元の指導計画とその実践」というテーマを設定し、PDCAサイクルをまわした単元指導の実践を意識して授業の実践研究に取り組んだ。研究に際し、以下三つの重点項目を設定した。

(1) 生徒の思考が活性化する問い（発問）を設定する

「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいて授業改善を目指し、どのような問い（発問）を設定すれば、生徒の思考を活性化させることができるかを探った。

(2) 評価結果を活用して単元の指導計画を立てる

単元の指導計画を立てる際に、これまでの指導の成果と課題を振り返り、「生徒の思考を活性化させる問い」をどのような内容のものにするか、また単元のどの場面に設定すればよいのかを検討した。そして、実践に際しては、「指導の改善に生かす評価」を活用し、本時の指導の成果を振り返り、次時以降の指導に生かすことを意識して単元の指導に当たった。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」を評価し、生徒の変容を見取る

ポートフォリオ評価を意識した。評定に結び付けることだけに捉われず、教師が指導の成果を振り返り、指導の改善に生かすために活用することに留意して研究に当たった。

3 研究のまとめ

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、昨年度の研究成果を踏まえて、生徒の振り返りを参照することで変容を見取ることにした。今のところ、この方法がベターだと考えているが、生徒が前時や前単元の学びを簡単に閲覧できるような工夫が生徒の学びを深めるためには欠かせない。

また、本年度の実践では、単元の指導計画を立てる際に探究的な学びへとつながるような工夫が足りなかったため、次年度に改善していきたい。